

## 介護福祉士教育における福祉レクリエーション教育の価値

○南條正人 [東北文教大学短期大学部] 高崎義輝 [仙台大学]

キーワード：介護福祉士教育、福祉レクリエーション教育、介護実習

### I. はじめに

2009年の介護福祉士養成カリキュラムの改定において、介護に関する科目の充実が図られ時間数も拡充された。その1つに「コミュニケーション技術」という科目設定が行われ、介護を展開する上で不可欠なコミュニケーションスキルを向上させるための教育が重要視された表れである。しかし、「社会福祉援助技術論」や「社会福祉援助技術演習」は新たな科目の一部に組み込まれた。また、「レクリエーション活動援助法」の科目は無くなった。

1994年より開始された福祉レクリエーション・ワーカー養成は通信課程と課程認定校により養成されている。その養成校の中には、介護福祉士と同時に取得させるカリキュラムを組んでいる認定校があるが、介護福祉士教育の中に福祉レクリエーション教育を行う価値や福祉レクリエーション・ワーカーを養成する価値が明確化されていないように思われる。そこで、今回はT短期大学部の介護福祉士教育における福祉レクリエーション関連科目と介護実習が連動しているカリキュラムを事例とし、介護福祉士教育における福祉レクリエーション教育の価値を検討する。

### II. T短期大学部におけるカリキュラムの概要と特徴

T短期大学部人間福祉学科では、「敬・愛・信」（人を敬い、人を愛し、人を信じる）の建学の精神を土台として、人権を尊重する基本姿勢と深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材の育成を目的とし、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「発展科目」の4つの領域に分けている。その「発展科目」では、介護に関連して利用者の生活充実に欠かせない知識と技術としてのレクリエーション活動を実践し、対人援助の基礎的態度などを学ぶための福祉レクリエーション教育を行っている。

T短期大学部人間福祉学科のカリキュラムの特徴としては、介護実習I（訪問介護実習を除く）の段階から全ての介護実習に、レクリエーション支援を介護活動の1つとして、実習生の達成課題に位置づけている。さらには、レクリエーション計画書を含むレクリエーション実践も介護実習の評価対象としている。

もう1つの特徴としては、平成21年度文部科学省「大学教育推進プログラム（以下 教育GP）」において採択された「生活関連図による地域体験活動と授業の統合」では、授業の一環として介護実習に出かける前の段階から地域活動体験（在宅高齢者訪問活動・障がい者日中活動支援・その他の活動）を継続的かつ組織的に展開し、コミュニケーションスキルを磨いて介護実習に生かせるようにしている。また、地域活動体験のまとめとして、在宅高齢者を本学に招き、学生が主体的にレクリエーションの計画を立て実践することを目的としてサロンを実施している。このサロンはレクリエーション活動を通して在宅高齢者と学生を繋ぐ教育活動を試みたものである。

### Ⅲ. 介護実習・在宅高齢者と学生を繋ぐ教育活動の実際

T 短期大学部がある Y 県内の介護現場では、介護職員のレクリエーション活動の不足等からレクリエーション支援がマンネリ化状態にあった。そのため介護実習にきた実習生にレクリエーション支援を実施してほしいというニーズが高い。そこで、T 短期大学部では、介護福祉士教育に福祉レクリエーション教育を位置づけ、他の介護福祉士養成校との差別化を図るカリキュラムを組んでいる。

介護活動では、利用者の心身の状況に応じた介護が求められ、個別ケアが重視されている。しかし、レクリエーション活動に関しては、通所事業所、入所施設においても集団を介している場合が多いのが実情である。コノブカ<sup>1)</sup>によるとソーシャルグループワークとは「ソーシャルワークの 1 つの方法であり、意図的なグループ経験を通じて、個人の社会的に機能する力を高め、また個人、集団、地域社会の諸問題に、より効果的に対処しうるよう、人々を援助するものである」と定義している。実習生はグループワークを学ぶ意義が大きいと考え、福祉レクリエーション関連科目において、グループワークを意識し、集団を介したレクリエーション支援の技術習得を図っている。

在宅高齢者と学生を繋ぐ教育活動の一環では、学生が主体的にレクリエーションの計画を立て実践するサロンを実施している。このサロンでは、福祉レクリエーション関連科目で学んだ集団を介したレクリエーション活動を実践することによって、介護実習におけるレクリエーション支援に臨むにあたっての実践の場ともなっている。

### Ⅳ. まとめ

2009 年の介護福祉士養成カリキュラムの改正から「レクリエーション活動援助法」は無くなった。しかし、介護福祉士教育に福祉レクリエーションを学ぶことや福祉レクリエーション関連科目の内容にグループワークを意識した技術習得が必要であると考え、T 短期大学部のカリキュラムを事例にし、介護福祉士教育における福祉レクリエーション教育の価値を検討した。

その結果、介護福祉士教育と福祉レクリエーション教育を連動させた教育は、介護現場のニーズに応えるとともに、学生はレクリエーション支援を通して、コミュニケーションスキルの向上や自己表現、積極的な行動が可能になったと思われる。このようなことから、介護福祉士教育における福祉レクリエーション教育は価値があるのではないかと思われる。また、介護現場では個別ケアが重視されているが、集団を介した活動においても、他者との相互作用を意識したグループワークの効果は計り知れないものがあると思われ、福祉レクリエーション関連科目にはグループワークを意識し、集団を介したレクリエーション支援をする技術の内容が必要であるのではないかと思われる。

最後に、介護実習施設の実習指導者や施設職員に対して、レクリエーション支援を位置づけている介護実習に対する意見等を調査する必要があると考えている。また、卒業生にも同様の調査を実施し、介護福祉士教育における福祉レクリエーション教育の価値を検証していきたい。

#### 【引用文献】

1) G・コノブカ著 前田ケイ訳 (1967) : ソーシャルグループワーク/援助の過程. 全国社会福祉協議会